

† 父である神さまはイエス様をこの世界に遣わし、わたしたちの応答を待っておられます。その優しくて温かな心に気付くことができますように。

ようやく冬の気候になってきたことを肌身で感じます。いかがお過ごしでしょうか。11月も残すところわずかとなったこの時期、教会は固有の暦に基づき、29日（日）から新しい一年の始まりである「待降節」に入ります。典礼祭儀（ミサやその他の儀式）で使用する司祭（神父）の服装に紫色を用いるため、視覚的にも実感することができます。なお、紫色には回心・悔い改め（神さまの思いに心を向き直すこと）、犠牲や忍耐などの意味が込められていますので、「待降節」はクリスマスを迎える前に自分の姿を見つめ直すように促す季節なのです。

第二回目のテーマは「準備して迎えましょう」です。

11月27日（金）、幼稚園のホールで行われた「待降節のつどい」のなかで、アドベントクランツと呼ばれる4本のローソクを一本ずつ灯していくにあたり、子どもたちに次のように話しました。「このローソクは待降節を過ごしていく中で一本ずつ火が灯っていくけど、それはわたしたちがイエス様を迎えるために準備していることのしるしなんだ。どんな準備をしたらイエス様を迎えることができる？家の中が散らかっていたらお客さんを迎えられないように、心を綺麗にしておかないと迎えることができないよね。心をきれいにしておくことはだれに対しても優しい心を持つことだし、何でもいいからちょっとがんばってみることだから、火が灯るたびに少しずつイエス様を迎えるために準備できることが増えていったらいいね。そして、今年も生まれて下さるイエス様を「おかえりなさい！」と言って迎えられたらいいね」と。

実は「待降節」には2つの意味があることをご存知でしょうか。一つはもちろん、クリスマス（降誕祭）を迎える準備をするということ。もう1つは再臨の時を準備するということです。誕生されたイエス様が世の終わりに再び来られることを信じているからです（使徒言行録1・11参照）。これがいわゆる“最後の審判”です。だからこそ、イエス様の誕生を毎年祝うにあたって、迎える側の準備が不可欠であることをさらに意識させます。キリスト教徒は“最後の審判”、つまり“神さまが世の中のことを任せられた人類を清算する時”がいつ訪れるのか知らないからこそ、この季節、イエス様の誕生を前にして自分の姿を見つめて神さまに向き直るように努めるのです。

「待降節」。クリスマスを迎える前のこの時期、子どもたちと一緒に誰かのために少しの犠牲を捧げつつ過ごしてみませんか？きっと、生まれて下さるイエス様を準備して迎えようとする姿が、わたしたちをひとりの人間としてより成長させることでしょう。